

2002年度 技術・職業教育学研究室の年次報告

技術・職業教育学研究室

I. 研究活動（2002年1月－12月）

1. 研究交流

<国内>

寺田盛紀（教授）

- ・科学研究費基盤研究（A・2：研究代表者）に関する平成14年度第1回研究会（名古屋大学：2002年4月27日-28日）
- ・同上第2回研究会（徳島：2002年10月26日-27日）

<海外>

寺田盛紀

- ・アメリカ合衆国：ミシガン州立大学（研究打ち合わせ）、コミュニティーカレッジおよびハイスクール他（現地調査）；2002年3月26日－30日
- ・ドイツ連邦共和国：ハーゲン放送大学、デュイスブルク大学他（研究打ち合わせ）、同地区ギムナジウム等（現地調査）；2002年6月2日－10日
- ・ドイツ連邦共和国：カールスルーエ工科大学（ドイツ教育学会・職業経済教育学部門秋期大会講演発表）；2002年9月15日－21日
- ・中華人民共和国：華東師範大学（講演「日本における職業教育の高等教育化の諸相と高校職業教育の課題」2002年11月8日、研究打ち合わせ等）、浙江工業大学他（研究打ち合わせ）；2002年11月6日－10日

横山悦生（助教授）

- ・スウェーデン王国：オレブロ大学教育学部（スウェーデンのリカレント教育と技術教育に関する現地調査）、ストックホルム教育大学および同地区小中学校（現地調査）；2002年3月14日－3月23日
- ・ロシア共和国：サンクト・ペテルブルグ教育大学（現地調査）、同地区教育施設（現地調査）、ビャトカ国立大学（研究打ち合わせ）等、ニジニ・ノブゴロド市（技術科教育に関する第1回国際会議）；2002年6月30日－7月14日
- ・ロシア共和国（サンクト・ペテルブルグ教育大学等）：2002年8月15日－8月30日

<客員教授>

- ・Ulla Johansson（スウェーデン・ウメオ大学教育学部教授）：2002年10月1日－2003年3月31日；客員教授として勤務、研究交流、講演会等

<外国人研究員>

- ・Dr. Kazuko Thornton（アメリカ・ミシガン州立大学講師）：2002年6月20日－7月2日；研究交流
- ・Dr. Matthias Pilz（ドイツ・リュネブルグ大学講師）：2002年6月23日－7月10日；ドイツ学術交流会（DAAD）推薦、日本学術振興会派遣・短期外国人研究者招聘事業による滞在
- ・Martin Johansson（スウェーデン・ウメオ大学教育学部教授）：2002年10月1日－2003年3月31日；研究交流、講演会等

2. 個人の研究成果

寺田 盛紀（教授）

<研究論文>

- ・寺田盛紀「高等学校における産業現場実習と職業教育」『職業と技術の教育学』第15号、83-111頁、2002年4月.
- ・寺田盛紀「後期中等教育段階の企業実習と職業指導・紹介」寺田盛紀（研究代表）編集下記報告書に所収、91－103頁.

<報告書編集>

- ・寺田盛紀（研究代表者）、ヴァルター・ゲオルグ、石偉平協力『中・高等教育におけるインターンシップ－職業・専門教育と雇用・就職の関連構造の日独中比較研究（国際共同研究中間報告書）－』全213頁、2002年3月.

<事典執筆>

- ・寺田盛紀「職業教育」（事典項目）『現代学校教育大事典』ぎょうせい、100-102頁、2002年8月.

<学会発表>

- ・寺田盛紀「職業・キャリアの視点と高校教育カリキュラム」日本カリキュラム学会第13回大会 課題研究Ⅲ（シンポジウム）「産業社会の変容と学校カリキュラムの構成」2002年7月7日、九州大学.
- ・Moriki Terada, Walter Georg, Helmut Demes : From School to Work – Übergangsmuster in Japan. 17.09.02. Herbsttagung der Sektion für Berufs- und Wirtschaftspädagogik der DGfE vom 16. - 18. September 2002. An der Universität Karlsruhe.
- ・寺田盛紀「職業教育の高等教育化の諸相－ドイツの専門大学の事例分析－」日本産業教育学会第43回大会、徳島大学、2002年10月27日.

横山悦生（助教授）

<著書・分担執筆>

- ・「第9章 諸外国における技術科教育の現状 6. スウェーデン」CD-ROM版技術科教育実践講座刊行会『CD-ROM版 技術科教育実践講座 理論編1 Vol. 1 工夫し創造する力をはぐくむ「カリキュラムと学習指導・評価」』p.335-p.340, 2002年6月, ニチブン

<論文>

- ・'Otto Salomon beyond Swedish history of education – Implications for current

developments in technology education at the compulsory school—' (Lazaro Moreno Herrera と共著) "NAGOYA JOURNAL OF EDUCATION AND HUMAN DEVELOPMENT"(The Graduate school of Education and Human Development, Nagoya University) No.1, p. 25-p.40, 2002年1月

- 'Water Turbine Casings in Gifu prefecture' (Isao Takahashi と共著) "NAGOYA JOURNAL OF EDUCATION AND HUMAN DEVELOPMENT"(The Graduate school of Education and Human Development, Nagoya University)No.1, p.113-p.123, 2002年1月
- 'Japanese Handicraft Subject (Syukkou-ka) and Swedish Sloyd Education' М. ПАВЛОВА И М. ГУРЕВИЧ Ред."ПЕРВАЯ МЕЖДУНАРОДНАЯ КОНФЕРЕНЦИЯ ТЕНДЕНЦИИ РАЗВИТИЯ ТЕХНОЛОГИЧЕСКОГО ОБРАЗОВАНИЯ" с 147- с 152, 2002 (M.Pavlova and M.Gurevich edit. "1st Biennial International conference on Technology Education" p.147-p.152, 2002)

< 翻訳 >

- Margarita Pavlova: Technology Education in Russia —Socio-Cultural Limitations to Design-Approach—"Science in Vocational and Technical Education" No. 15, p.15- p.42, 2002 (横山悦生・丸山佐和子・丸井美穂子訳「ロシアの技術科教育—デザイン・アプローチの社会文化的制約—」『職業と技術の教育学』第15号, p.43-p.66, 2002)

< 学会発表 >

- 'Japanese Handicraft Subject (Syukkou-ka) and Swedish Sloyd Education' "ПЕРВАЯ МЕЖДУНАРОДНАЯ КОНФЕРЕНЦИЯ ТЕНДЕНЦИИ РАЗВИТИЯ ТЕХНОЛОГИЧЕСКОГО ОБРАЗОВАНИЯ" (Ниžний Новгород, РОССИЯ) ("技術科教育に関する第1回国際会議" ニジニ・ノブゴード市、ロシア)、2002年7月11日.
- 「手工教育の成立期における経済的契機と教育的契機—スウェーデン・スロイド協会の成立と『営業の自由』をめぐって—」(産業教育学会第43回大会、徳島大学) 2002年10月28日

伊藤一雄 (研究員：高野山大学教授)

< 論文 >

- 「改定教育職員免許法と教員養成制度についての一考察—小規模大学での教員養成を中心に—」『高野山論叢』37巻、125—142頁、2002年2月.

< 報告書・分担執筆 >

- 「工業高校の総合的な学習の時間としてのインターンシップ」寺田盛紀(研究代表者)『中・高等教育におけるインターンシップ—職業・専門教育と雇用・就職の関連構造の日独中比較研究(国際共同研究中間報告書)—』、31—42頁、名古屋大学教育発達科学研究科技術・職業教育学研究室、2002年3月.

< 分担執筆 >

- 「生徒指導と進路指導」『教科外教育の理論と実践』教職問題研究会編、ミネルヴァ書房、全231頁(そのうち、26頁を分担執筆)、2002年9月.

齋藤 修啓（日本学術振興会特別研究員）

<学会発表>

- ・「明治期の博覧会にみる社会教育概念の変遷」日本社会教育学会第49回研究大会、北海道大学、2002年10月5日.

吉留 久晴（名古屋大学・名城大学非常勤講師）

<著書・分担執筆>

- ・「ドイツ」（吉留久晴・寺田盛紀）鈴木寿雄ほか（監修）『CD-ROM版技術科教育実践講座 理論編1 Vol. 1 工夫し創造する力をはぐくむ「カリキュラムと学習指導・評価」』ニチブン、2002年6月、329-334頁.

<論文>

- ・「ドイツ前期中等教育段階における企業実習の役割—生徒の視点からみた実態—」寺田盛紀（編）『中・高等教育における「インターンシップ」—職業・専門教育と雇用・就職の関連構造に関する日・独・中比較研究（国際共同研究中間報告書）—』、2002年3月、77-90頁.
- ・「ドイツ前期中等教育における職業選択学習の内容構成—最新の労働科教科書の内容を中心に—」日本カリキュラム学会『カリキュラム研究』第11号、2002年3月、45-57頁.
- ・「ドイツ前期中等教育段階の企業実習カリキュラム論の展開—企業での作業経験の教育的意義をめぐる—」日本産業教育学会『産業教育学研究』第32巻第2号、2002年7月、1-8頁.

II. 教育活動

1. 名古屋大学大学院教育発達科学研究科専門科目

寺田盛紀（教授）

研究方法特論 I

職業教育学研究 I

職業教育学研究 II

職業教育学 I（修士・社会人コース）

職業教育学 II（修士・社会人コース）

横山悦生（助教授）

通常課程

技術教育学研究 I（技術教育史の諸問題）

技術教育学研究 II（北欧における女性の労働と教育）

修士・社会人コース

技術教育学 I（近代日本における技能者と技術者の形成過程）

技術教育学 II（ウラ・ヨハンソン教授と共同：デンマークにおける成人教育の歴史）

2. 名古屋大学教育学部専門科目

寺田盛紀

人間発達科学 I（生涯教育開発）

職業教育学講義

技術教育学講義

職業教育学演習

技術教育学演習

生涯教育調査実習（「社会・産業教育調査実習」）（横山助教授、牧野助教授と共同）

生涯教育調査実習（田中教授、金井助教授と共同）

横山悦生

職業教育学講義

生涯教育開発演習Ⅰ

技術教育学演習（遊びと労働の教育）

職業教育学演習（遊びと労働の教育）

技術教育学演習（ウラ・ヨハンソン教授と共同：北欧の教育）

3. 非常勤講師

森下一期

技術教育学研究Ⅱ（大学院）／技術教育学講義 集中講義：2003年1月4日－7日

4. 卒業論文

松本浩司「フリーター産出メカニズムに関する社会学的分析」

Ⅲ. 研究室運営

1. 研究室報の発行

『職業と技術の教育学』第15号、2002年4月発行.

2. 報告書等の発行

- ・『ロシア研修報告書』（横山編集）全37ページ、2002年9月発行.

3. 研究室予算

- ・通常校費320万円（当初予算160万円×2）
- ・科学研究費基盤研究(A)(2)「職業・専門教育と雇用・就職の関連構造に関する日独中比較研究」490万円、及び科学研究費間接経費40万円